

13.レクリエーションが子ども食堂にもたらす影響：地域の居場所になるために

福家雅稀

第1章 はじめに

子ども食堂は、近年急速に増加してきた。増加するにあたってたくさんの種類の子ども食堂が生まれてきた。地域の有志や民間団体、NPO 団体などが中心に運営している。子どもたちに無料、もしくは安価で食事を提供することにより地域のつながりの場所として機能している。愛知県の子ども食堂の数は2018年9月で110をも超えるほどの子ども食堂が存在しているほどの子ども食堂はブームが起きている。それにしただって今の子ども食堂で行われていることとして、ご飯のみの提供や地域のコミュニティの場としてレクリエーション、他には大学生などによる学習支援などを行っている子ども食堂などたくさんの種類が生まれた。子ども食堂は貧困対策と思われることが多いが、本来あるべき姿は地域に根付かせ地域の人どうしをつなぐことコミュニティの場所であるべきだと思い、その中でもレクリエーションにより子どもどうしは食事以上につながる事が出来るのではないのかと思う。

本調査では2018年10月から12月にかけて、愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂の運営者と子どもと大人の利用者に向けてアンケートを取った。その中の運営者の調査と子供に向けて取ったアンケートを使いながら「レクリエーションが子ども食堂にもたらす影響」に関して仮説をもとに調査していきそれをもとに実際に参加した子ども食堂を踏まえて今後のレクリエーションへの捉え方や重要性などをいろいろな子ども食堂の運営者の方に届けばよいと思う。

本稿では、愛知県における子ども食堂のレクリエーションの種類や子どもが大学生などのスタッフと遊ぶ事が楽しいと思う子どもの割合などを調査していく。

第2章 調査方法

調査対象は愛知県及び名古屋市内の子ども食堂の運営者と子ども食堂を利用する子どもと大人である。調査結果の運営者のデータ及び子どものデータを選択してデータ化をした。

運営者

- 一回あたりに来る子供の参加人数
- 地域に根付かせるためにしていること
- レクリエーションで何をしているか

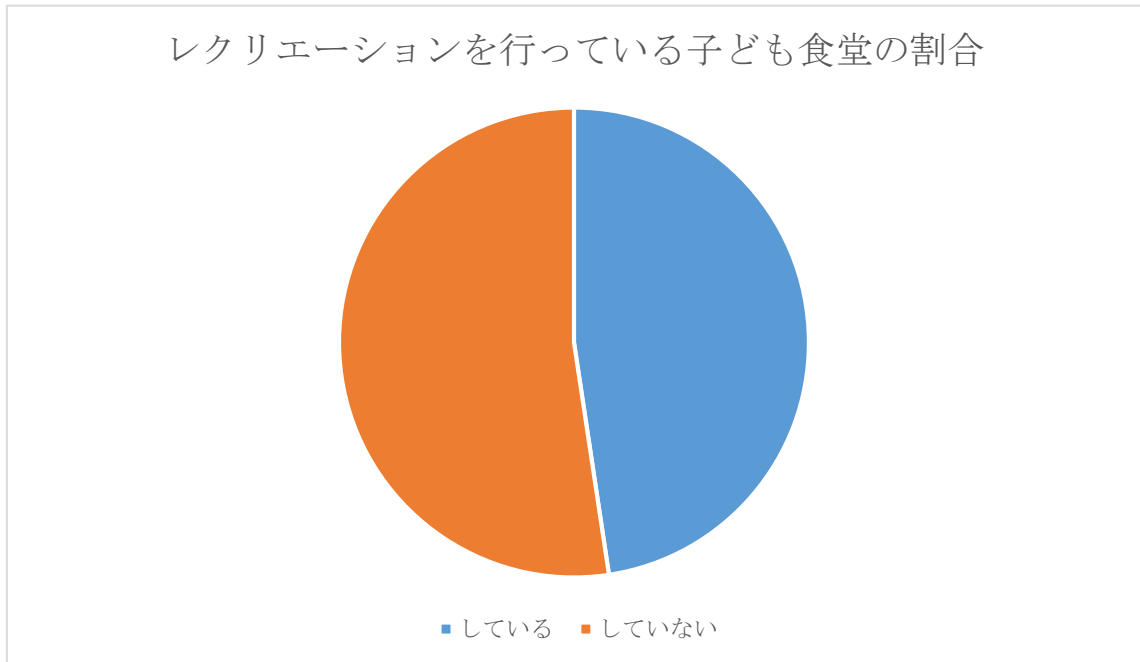
子ども

- どんなきっかけで子ども食堂に参加したのか
- 子ども食堂の好きなところ

第3章 調査結果

まずレクリエーションを行っている子ども食堂の割合を見ていく。

レクリエーションを行っている子ども食堂の割合



回答のある子ども食堂ではレクリエーションを行っている子ども食堂はおおよそ 50% ずつとなっている。

レクリエーションとしては

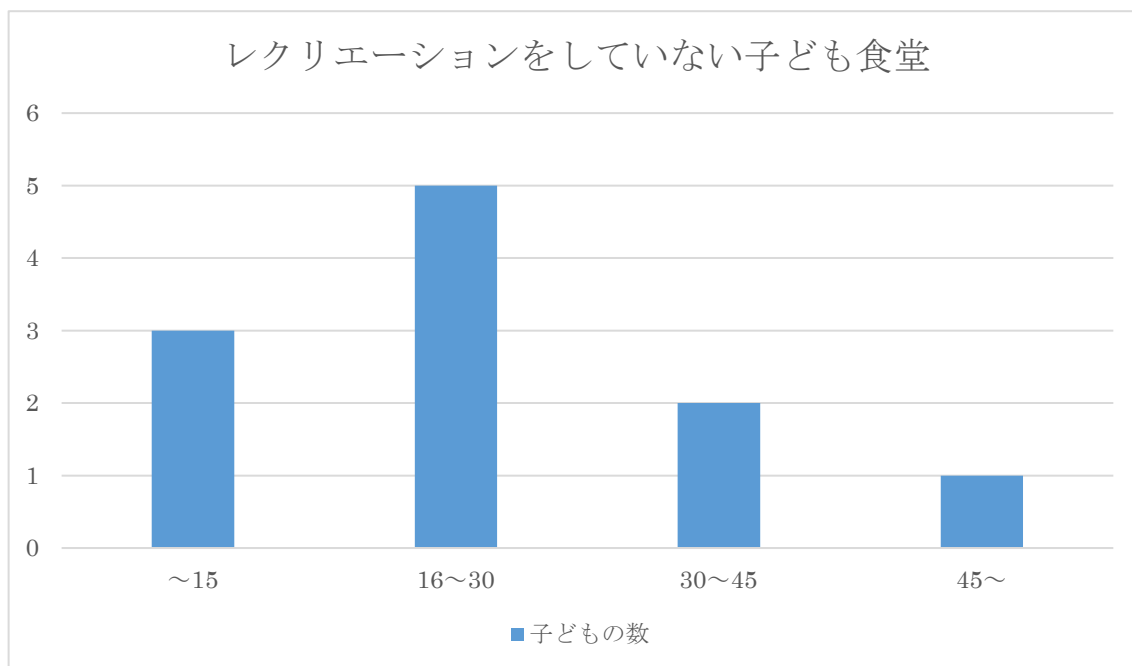
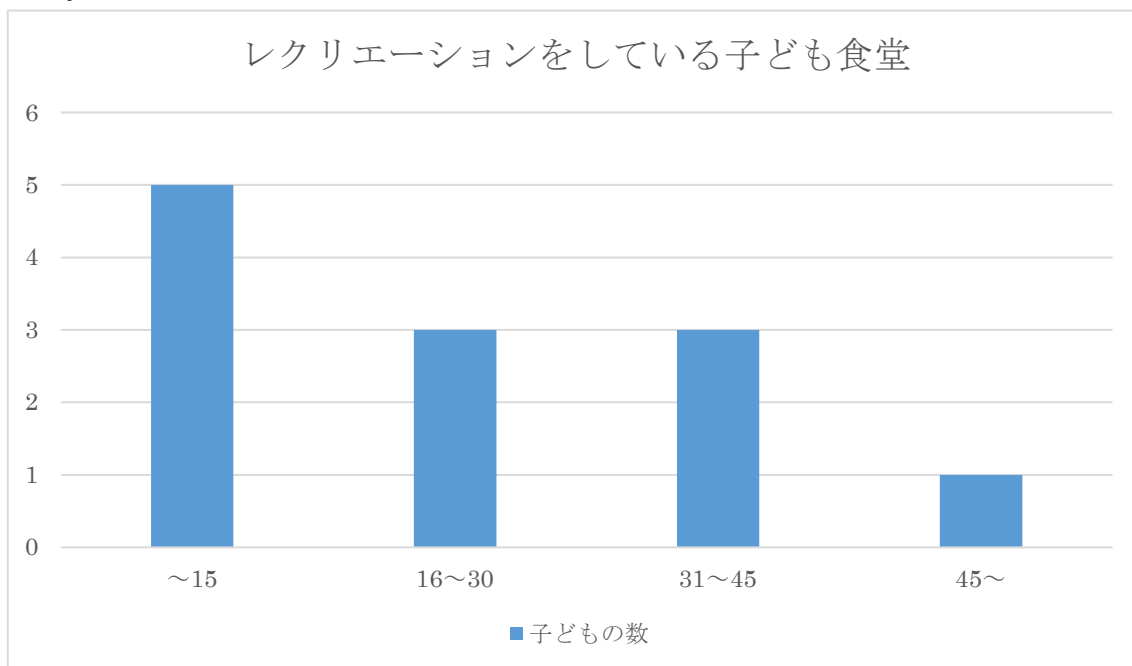
- 餅つき大会や流しそうめん、クリスマス会などの季節の行事
- 絵本の読む聞かせ
- ダンスをする
- 昔の遊び
- スイーツを作るなどの調理教室
- 折り紙
- 地域の人と散歩に行き商店街の人とお話をする
- 楽器の演奏
- 手品
- 落語を聞く
- ボードゲーム
- 祭りに参加
- 地域で活躍されている団体や歴史や民話の団体による話
- シューボックスイベント など

色々な種類のレクリエーションがある。いろいろな子ども食堂で行われている絵本の読み聞かせや調理教室のほかにも地域の人と協力しながら地域について学べる事が出来るような散歩などいろいろな子ども食堂によって考えられている。

仮説 1

子ども食堂でレクリエーションをしているところはしていないところ比べて子どもの数が多い

親の目線から見ると子ども食堂では安くご飯を食べられるところに魅力を感じると思われるが子どもは学校の友達や子ども食堂だけで会うことが出来る友達と会えることに魅力を感じるために子どもの数が増えるのではないのかと思った。他にもレクリエーションを通じて楽しみを体感的に感じる事が出来、子ども食堂にリピーターとして参加するのではないのかと思う。これに学校で子どもどうしがレクリエーションを体験することによって楽しいという風に話すことによって広がるのではないのかと思ったためこの仮説を立てた。



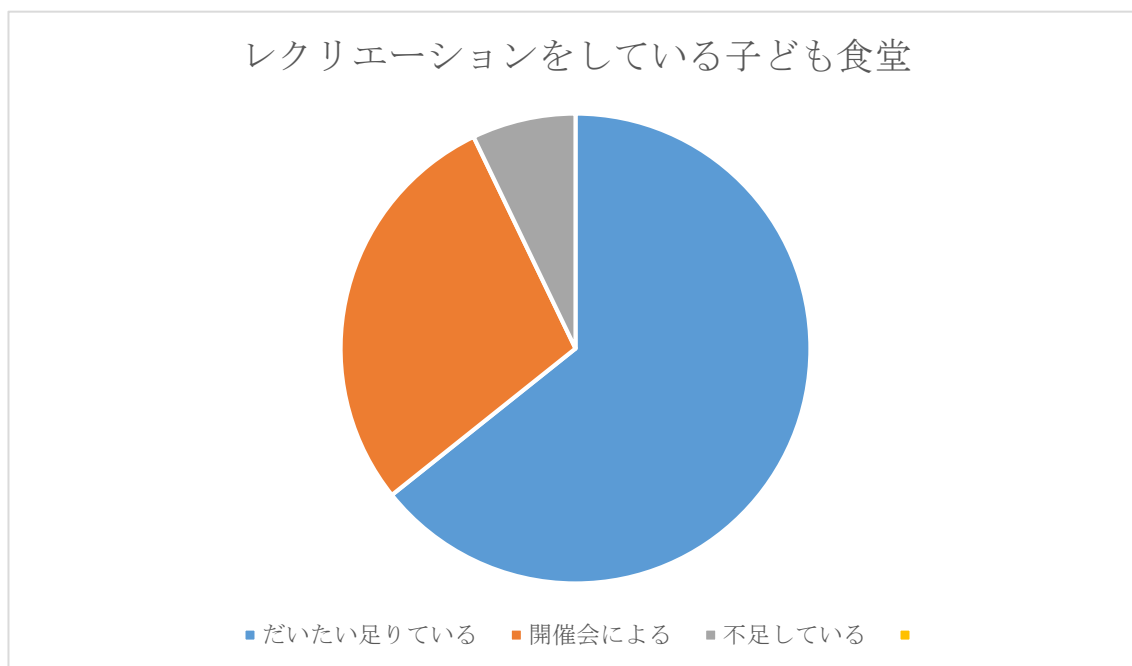
結果

子どもの数とレクリエーションの有無にはそこまでの関係性が無いようにも感じた。しかし、ここでまた新しい仮説が生まれた。逆に子供が多すぎるとレクリエーションを行うのにボランティアの数がたくさん必要になるほか広い場所を必要とする可能性があるために少ない子どもの数の子ども食堂の方がレクリエーションを手軽に行えることが出来ると考えた。

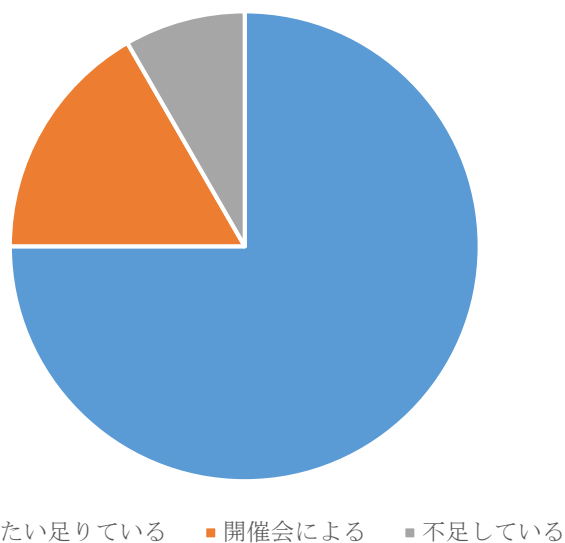
仮説 2

レクリエーションをしていないところの悩みとしてボランティアの数が少ないと思う割合が多いのではないのかと思う。

これは上の仮説 1 を解くことによって生まれた仮説である。理由は先ほど書いたがレクリエーションをするためのボランティアがおらずすることが出来ないのではないのかと考えた。



レクリエーションをしていない子ども食堂



結果

レクリエーションをしていない子ども食堂の方が不足していると感じる割合が少し多いがそこまでの差がないことに気づくことが出来た。

どちらかと言うとだいたい足りているという割合が多いことに驚いた。ボランティアの数によってレクリエーションの有無が決まっていないことが分かった。

仮説3

子ども食堂でレクリエーションをしているところはしていないところに比べて子どもたちが子ども食堂の好きなところに大学生などのボランティアの人と遊ぶ事が好きと友達に会えるからという割合が高い。

レクリエーションをしていない子ども食堂でのボランティアの仕事はご飯を作ることやご飯の配膳などの仕事の主となる。その為に子どもたちと触れ合える時間が少なくなってしまっているのではないのかと思う。これによって好きなところにスタッフの人の遊びを挙げる子供が少ないのではないのかと考えた。もう一つの友達に会えるからと言うこともご飯を食べるのみでは触れ合う時間が少ないため子ども食堂の好きなところに上げないのではないのかと思ったためこの仮説を立てた。

第4章 終わりに

ここまで複数のレクリエーションについての仮説を立てたが今回のアンケートだけでは立てきれないものもあった。レクリエーションに着目したときに絵本の読み聞かせや折り紙のような小さい子どもだから参加できるものやボードゲームのようなある程度の年齢をかさなければならぬようなレクリエーションがある。これの関係性を見たいと思った。子どもの年齢の割合を見たいと感じた。あと調べてみたいものとしてレクリエーションを先に決めてそれに参加したい子供が集まってきているのかそれとも開催者の人が子

ども年齢を見てから決めているのかを調べていきたいと思う。

ここまでの仮説の結果を自分が参加したことのある子ども食堂と関連付けて考察していく。

日進絆子ども食堂

日進絆子ども食堂はレクリエーションに力を入れている。ボランティアが大まかに 2 つに分かれている。大人の人たちは料理を作ることがメインの仕事になっている。逆の大学生などの学生ボランティアはご飯の後の遊ぶ内容を考えたり遊ぶ事がメインの仕事となっている。これは日進絆子ども食堂の良いところであると思う。ご飯にもレクリエーションにお互いリーダーがいることによって内容の濃いものを両方作ることが出来る。この他に料理を食べている子どもも遊びたい子供も両方対応できる場所も良いところであるのではないのかと思う。この他にも地域のボードゲームをしている団体と協力している。このボードゲームは今では日進絆子ども食堂に根付いておりご飯を食べて終わった後に学生のボランティアの人や団体の人と遊ぶ事を楽しみにくる子どもも多くいる。しかし、日進はボランティアの人数が多いので出来ることであるのですべての子ども食堂では行うことはできないのではないのではないのかと思う。日進絆子ども食堂は年齢の高い子供が多い為ボードゲームを自分たちですることが出来たりボランティアの人が一人と子どもでもボードゲームをすることが出来る。このような背景があるために日進ではボードゲームが根付いたのではないのかと思った。

長久手子ども食堂

長久手子ども食堂の子どもたちは元気な子供が多い気がした。しかし、料理を食べるところと遊ぶところが一緒になっている。このように遊ぶ場所が少し少なくレクリエーションと言うより大学生が子どもの相手をしているような感じがした。

ゆるっとほっとかふえ

ここは食事からレクリエーションのように自分は感じた。子どもがご飯を作るのでこれはボランティアの人と子どもが触れ合えることが出来る。この他に料理をすることがなくなった子どもたちは大学生に勉強を教えてもらったり他にはサッカーなどの遊びなどをすることが出来るのがよいところなのではないのかと思った。ここまでたくさんのレクリエーションについての仮説を立ててきたがまだまだ分からないことが多すぎた。自分の想像していたものよりレクリエーションについて深いのではないのかと感じた。このあともしっかりと子ども食堂についてとレクリエーションの関係性を深く調べていきたいと感じた。